

令和4年度 新潟市農業活性化研究センター試験成績書

研究課題	秋冬期における一、二年生草花の展示栽培（モルセラ）
背景・ねらい	新潟市では晩秋から早春にかけて出荷できる切花品目が少ないため、秋冬期における無加温ハウスで栽培が可能な品目・作型等を検討し、切花出荷期の拡大を図る。
担当者	海津 朋之， 山口 次郎， 渡邊 一彦
研究期間	2020～（3年目）

1 目的

秋冬期に無加温ハウスで栽培が可能であり、市場での需要が高い品目を展示栽培し、当該期に球根以外で種苗費が安く換金可能な草花類（秋播き二年草）の新品目導入のための資料とすることを目的とする。

当該品目は本来秋播きで春咲きであり、昨年度試験においては株間 15 cm で定植を行い、側枝が繁茂して作業性が低下した。今年度は栽植密度を高くし、脇芽かきを行って栽培した。

2 方法

(1) 試験場所：農業活性化研究センター内鉄骨ハウス 4

(2) 供試品種：モルセラ ベルズオブアイルランド（図 1） <フクカエン>

(3) 試験区の構成・規模  
32 株（反復なし）

(4) 耕種概要

ア 播種：7 月 14 日

イ 育苗：50%遮光

ウ 定植：7 月 26 日

エ 栽植様式：畝幅 80 cm，条間 12cm，株間 12cm，6 条植え（62,500 株/10 a）

オ 施肥：基肥（kg/10 a）N-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>O= 15-15-15

追肥 生育の状況を見ながら適宜施用。

カ 電照：定植直後より日長延長（日没後～PM10:00）

キ 摘芯：なし

ク 脇芽かき：適時

(5) 調査項目

採花日，採花本数，切花長，莖径，節数，切花重，花穂長，側枝数

3 結果の概要（表 1）

(1) 発芽は良好であったが、8 月頃から、特に下部の古い葉に何らかの障害と考えられる症状が現れた（図 1）。詳細は不明であるが、生育が強く阻害されているとは見受けられず、また通常の出荷調整では下葉を取り除くため、切花自体への影響は大きくないと考えられた。

(2) 側枝を落とし、草姿をシンプルにすることで、採花の際の作業効率の低下を防いだ（図 2）。

(3) モルセラは無限花序であり、がく片が上段まで発達した後は採花適期が長く続くため、在圃性が高く、一括採花とした。ただし、一部においてはネットなどの支えがある箇所を起点として、徐々に屈曲する傾向がみられた（図 3）。

(4) 切花長は 127.1 cm となり、その他の形質も出荷が可能な品質を確保できた。

4 考察とまとめ

本試験では、本来秋播きで春咲きのモルセラを夏播き秋冬咲きの作型で栽培した。厳暑期の播種・定植栽培であるが、育苗時の遮光などで栽培が可能であった。生育は良好で、出荷可能なものが採花できた。

今年度は脇芽かきを行い、シンプルな仕立てとした。昨年度は側枝を残す仕立てとし、その繁茂のため出荷調整作業が負担となったが、軽減できた。いずれの仕立て方でも栽培は可能であるので、自らの経営に合わせ、労力と市場動向などを参考に判断するとよい。在圃性が良く、ある程度生産者の都合に合わせた採花が可能であるが、在圃期間が長すぎると花穂が伸長を続け屈曲し、草姿を乱しやすくなるため注意が必要である。

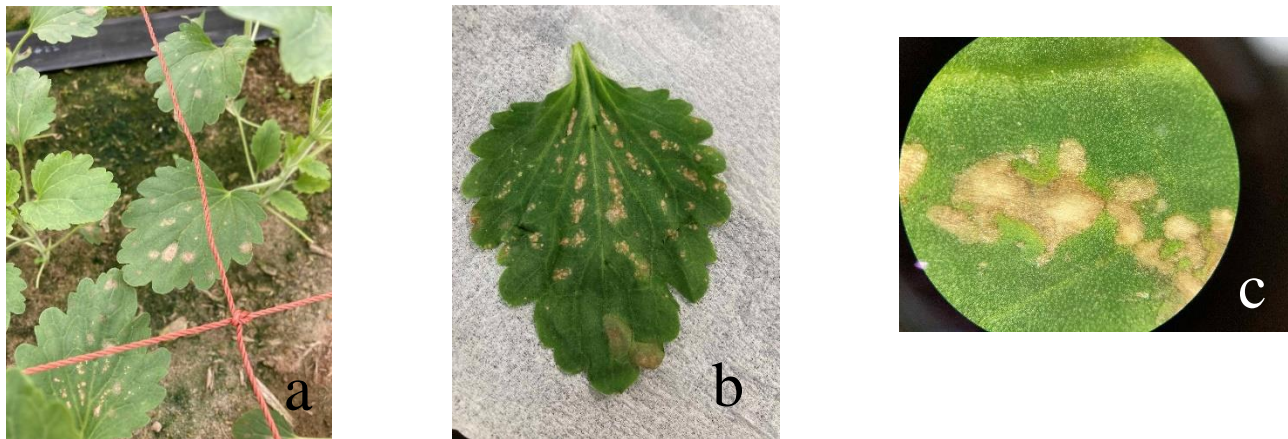


図1 葉の病害と考えられる症状 a, bは等倍 cは実体顕微鏡 (×20) による



図2 切花の様子



図3 一部が屈曲している様子

表1 切花結果

品種名	採花日	到花日数	採花率	切花長 (cm±S.D.)	花穂長 (cm±S.D.)
ベルズオブアイルランド	10/7	95	100.0%	127.1 ±4.8	94.7 ±7.6

茎径 (mm±S.D.)	節数 (節±S.D.)	切花重 (g±S.D.)
5.8 ±0.5	53.6 ±2.7	65.1 ±13.9